

第２２回紀の川市子ども・子育て会議
議事概要

日 時	令和７年２月１２日（水） １０：００～１１：１９		
場 所	紀の川市役所 ２階 市民協働スペース		
出席者	(順不同敬称略) 【委員】 金川委員（会長）、嶋田委員（副会長）、藤田委員、松本委員、 林委員、清原委員、寺田委員、沖殿委員、大亦委員、古田委員、 坂浦委員、真砂委員、長岡委員 【事務局】 山田、堀口、丸山、浅田、峰田、山本、渡辺、瀧本、山中、南		
欠席者	４人	傍聴者	なし
議 題	(１) 第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画案及び概要版案について (２) 教育・保育施設の入所申込状況について		
資 料	第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画案 資料A 第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画概要版案 資料B 計画案変更箇所一覧 資料C 私立幼稚園・認可保育所・認定こども園入所申込状況 資料D		

１．開会

２．あいさつ

３．議事

<議題（１）第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画案の修正点について事務局より説明>

金川会長 計画本編について、前回の会議でいただいた意見や確定した数値などを反映している。今回の修正点でも、全体を通してでも構わないので、意見はないか。計画の最終の確認となる。

パブリックコメント自体は直接反映していないが、非常に大事な意見であるので、計画の中に意識として取り入れてほしい。

今回、７２～７３ページにおいて、重点事業としてライフステージ別に、どの時期に紀の川市が力を入れて取り組むのかということを知りたい。

やすく示している。読みやすさを重視したコラムも入れている。

お気づきの点等なければ、概要編の説明に進むが、後からでも本編に関する意見があればお願いしたい。

＜議題（１）第３期紀の川市子ども・子育て支援事業計画概要版案について事務局より説明＞

金川会長 うまくまとめていると思う。何か意見等あるか。

真砂委員 ボリュームのある計画を概要版にうまくまとめているが、デザインについて、黄緑色を多用しているのが気になる。概要版は広く配布すると思うが、公の広報物については高齢者への配慮も必要である。薄い黄色や黄緑色は高齢者には区別しづらいので、もう少し色を濃くするとか紙質とか改善してほしい。

事務局 今回お配りしたものは確認用として再生紙に印刷しているが、実際の紙質は一般的なパンフレットなどと同様のものとなる。

子育て世代をターゲットにしたイメージでデザインしてもらったので、高齢者への配慮という部分は欠けていたかもしれない。色味については、貴重な意見をいただいたので、検討して可能な範囲で修正する。

金川会長 通常であれば概要版には最後に連絡先や相談先が記載されているが、今回はガイドブックも含めて周知していくということと理解する。

他に意見等がなければ、議題（１）はここまでとする。

計画及び概要版については、デザインの修正等は今後検討することになるが、最終は会長と事務局で確認ということで良いか。

では、そのように進めさせていただく。

＜議題（２）教育・保育施設の入所申込状況（令和７年２月１日時点）について事務局より説明＞

金川会長 まだ確定ではないが２月１日時点での状況ということで説明してもらった。少し調整が必要な部分もあるとのことだが、工夫しながら運用してもらっていると思う。何か意見等ないか。

特になければ了承ということで、議題（２）を終了する。

＜議題（３）その他（各委員からの意見等）について＞

金川会長 委員の任期が来年度９月までということで、今期の会議は今回が最終となる。それも踏まえて、所感や意見、紀の川市の子ども・子育て支援について思うことなど、順番に話してもらいたい。

藤田委員 委員として参加してとても勉強になった。
予算など制約がある中で、公平に実施することが大事だと思う。
市民の皆さんがどんなことを考えているのか、アンケートなどを通して私自身が感じたのは、いろんな場面が必要であるということ。いろんな人がいるので、一つに固まってしまうのではなく、小さいところも排除せず、選択できる場を広げることが必要である。それぞれ特色があることが分かった。専門分野外のことについて勉強させてもらった。

松本委員 子育てガイドブックや計画概要版は、一般の方にも分かりやすく伝えようとしていて、見えやすく工夫されていると思いながら確認した。
子育て中の方から、４～５歳くらいまでの幼児と週末をどう過ごすか、育休中に安心して連れていける場所が欲しいという声をよく聞く。最近特に耳にするのが、有田市の子育て世代活動支援センター「W a k u W a k u」。屋内で公園のように遊べて、日曜日も開いている。有田近郊だけでなく県内全域から集まっている。海南市にもカフェがあったり、和歌山市駅に広場があったりするが、岩出市・紀の川市周辺にはそういう施設が少ないと感じている。有田市は人口減少の危機感の中で、子育て支援に力を入れるということで、この施設を造ったとのこと。
困難家庭はどこにでもある。今も支援はしてくれているが、従来の支援やサポートだけでは対応できない部分も増えていて、今までとは違う次の一手がこれから求められていくと感じる。
とにかく、全天候型で休日・祝日に利用できる場所が必要だと思う。

林委員 最近「紀の川市は子育てに手厚いので引っ越してきた」とか「紀の川市は子育て世帯へのサポートが充実しているから良い」という声をよく耳にする。自然も豊かで人も温かくて、適度に利便性も兼ね備えていて、とても住み良い町だと思っている。もっと子育て世代に来てもらえる紀の川市になってほしい。
保育所には毎日１０時間以上預けられている子どもがたくさんいる。起きている時間でいえば家庭にいる時間よりも長くて、子どもたちにとって保育所が大きな生活の場となっていると実感している。今後はます

ます多様な保育が必要になってくる。インクルーシブも意識して、いろいろな背景をもつ子ども一人一人をまんやかに置いて、子どもたちが安心して豊かに過ごせるような環境にしていきたい。「紀の川市で子育てして良かった」と思ってもらえるように、保育所ができる子育て支援に努めていきたい。

このような会議に参加して、いろんな立場の方の貴重な意見を聞くことができて、共感したり、参考にしたりすることも多かった。

清原委員 初めてこの会議に参加させてもらってから、いろいろ勉強になった。保育園の周辺でも、子どもたちが独りぼっちで家にいるのが嫌なときや、ちょっと外に行きたいと思ったときに行ける場所が必要だということで、地域の方々が立ち上がってくれて、居場所となるところが増えてきているが、もっと子どもや大人が集まれる場所が必要なので、地域と行政が協力しながら増やしていくべきと思う。

保育園に迎えに来たときに母親同士が話し込んでいて、その間子どもたちは園庭で遊んでいるという光景をよく見かける。保育園内で保護者が集えるサロンのような場所を提供できたらと考えるが、なかなか実現できる状況ではない。

今回の計画ができて、これからだと思う。実践していく中で計画どおりに進まないこともあるだろうが、そこは地域が協力しあって、子どもたちにとってより良い環境づくりをしていければと思うし、保育園としてもその手助けをしていきたい。

寺田委員 結婚や出産をする友人が増えてきて、「紀の川市ってどうなの？」というような、紀の川市の子育て事情を聞かれることがある。子育てガイドブックは見やすいし、私自身も初めて知る支援などもあって、とても分かりやすく参考になる。

紀の川市にどんどん人が来てほしいので、ガイドブック等を使って情報を発信していけたらと思う。友人だけでなく、幼稚園に来られる保護者の方や地域の方々にも、紀の川市のアピールをしていきたい。

沖殿委員 この会議でいろいろ勉強させてもらった。

他の委員からも発言があったが、ガイドブックも計画のデータ等も見やすくまとまっていると思う。

児童発達支援センターには障害のある子どもたちが通っているが、保健師との連携が重要である。紀の川市の保健師は熱心に対応してくれ

て、親のため子どものためにと寄り添ってくれている。

この計画のもと、より良い紀の川市になっていくれたらと思うし、地域の方々が紀の川市を好きになってもらいたい。

大亦委員 普段子育てしていると、自分の子どもに掛かり切りになって、周りの環境が見えづらくなっていると感じた。地域にはいろいろな立場の保護者や子どもがいる。町を作っているのは地域の方々と、地域全体で子育て環境を作り上げていかななくてはならないと実感できた。

コロナが明けてから神社のお祭りなど地域のイベントが開催され参加している。地域の方々が立ち上がって実施してくれていてありがたい。自分が幼少期に経験したものを子どもたちも経験できたと思う。行政だけでは足りない部分がある。地域が一丸となって力を合わせないと実現できないこともある。一人の母親として、紀の川市民として、できることを頑張っていきたいと感じた。

先日野あそびの丘で子どもたちを遊ばせていたら、子ども見守りパトロールで巡回してくれていた方が中学校時代の先生で、地元で子育てしているとこんな良いことが起こるのだと驚いた。常に地元の方々に見守られていて、すごくありがたいと感じた。自分も子育てが終わってから、町のために何かしたいという気持ちになれた。

子育てについてこんな風にみんなで考えることは大事だと思ったので、会議に参加できて良かった。

古田委員 この会議に参加して、今まで自分が必要としなければ調べることもなかった制度やサポートがたくさんあると分かって驚いたし、いろいろ取り組んでもらっていてうれしく思った。本当に知らないことばかりで、自分も制度を利用する側だけでなく、自分たちでできることが何かあればと考える機会をもらった。

子どもたちの放課後の居場所づくりとして、打田生涯学習センターで試験的とのことだが「スペースいばしょ」を実施してくれてありがたい。まだ参加できていないが、センター内に楽しそうな写真が掲示されていて、子どもたちも友達と行ってみたいと言っている。こういう場所がたくさんできれば、学年とか関係なく出会いや経験ができて良いと思う。

坂浦委員 この会議で、紀の川市が取り組んでいる様々な事業を教えてもらったので、民生委員として今後子どもたちの支援にうまくつながりたい。

スポーツ少年団の指導もしているが、児童数が少なくなっていて、旧町単

位では人数が足りなくて試合に出場できなくなっている。指導者間で協議して、今後は合同チームでの参加を考えている。ただ、一人でもその地域で活動したいと思う子どもがいるなら地域毎の団は残していきたい。小学校の再編等も進むとは思いますが、地域に子どもたちの居場所が必要である。休校や統合された後の学校施設等をどう活用していくかをうまく考えてほしい。

真砂委員

この会議の委員を長く務めていて、その間の紀の川市の様子や取組をずっと見てきたが、正直に言って環境は良くなっていない。数字を見ても、虐待の相談、不登校の相談、そして産後うつの数も増えている。これも氷山の一角である。乳幼児期の環境は成長していくうえでの一番の礎となる部分だと思うので、その部分が危機的な状況になっているということがすごく心配である。

学校関係者の方に話を聞くと、昔に比べて保護者対応に日々追われてしまっている。子どもたち自身が集中できなくなっている。授業を受けることが困難な状況になっている。そこにギガスクールが入ってきたが、うまく活用できていないし、1人1台のタブレットが子どもたちの依存症を深刻化させている。何かを調べるにしてもタブレット頼りで、自分で考えなくなっている。

そんな状況なので、乳幼児期にしっかりと考えられる、大人を信用できる子どもに育てることが重要である。それには、毎回言っているが、地域全体が、今の状況は非常に危機的なのだということを認識し、資金もないと取り組めるものでもないので、まずは子どもたちのためにしっかりと予算を確保してもらいたい。また、さきほど話題に出ていたが、有田市の支援センターは非常によく考えられた居場所になっている。乳幼児の遊び場だけでなく、中高生が学習スペースとして使用できて、家具のデザインや色使いも配慮されていて、誰もが気軽に行けて居心地が良い場所が作られている。お金があっても、子どもたちのためにという情熱がないと、子どもたちにとって有意義な居場所は作れないと思う。

紀の川市にはそういう場所がない。だからこそ、計画の重点事業としている「こども家庭センター」「子どもの居場所づくり」というのが非常に重要となってくる。設置しただけではなく、子どもたちが居心地良く過ごせる居場所づくりをお願いしたい。

長岡委員

市役所もガイドブックを作ったり、ホームページをリニューアルしたりと、情報を分かりやすく伝える工夫をして、若い人たちにアプローチ

しようとしていて良い。

子どもたちの居場所となっていた児童館や公民館が、老朽化等でどんどんなくなっている。昔は小学校区に放課後子どもが集まれる場所があったが減ってきているし、公共施設ができては遠かったりする。子どもたちが自分たちで行けて遊べる居場所を作ってあげてほしい。建物の老朽化は仕方がないことだが、そこが利用できないなら学校の空き教室を放課後開放してもらおうとかできればありがたい。

保育所の子どもが遊べて、保護者が集まって情報交換できるような場所も必要だが、紀の川市にはない。残念である。紀の川市の図書館では子どもたちが走り回ったり騒いだりできない。読書したり勉強したりするところというのは分かるが、図書館も子どもたちの居場所になってほしいので、海南市のノビノスのような、子どもたちが遊び回れるような施設が紀の川市にもあれば良いと思う。岩出市と合同でも結構なので、作ってほしい。

嶋田副会長 最後ということで委員の皆様にお礼を申し上げます。貴重な意見をいただいた。また、昨年から2年間に渡り、第3期計画の策定に尽力いただき、感謝申し上げます。今回の計画は令和7年度から5年間の計画で、計画に基づき施策の推進を図るとともに、様々な課題解決に向けて取り組んでいきたい。委員の皆様には引き続き紀の川市の子育て施策に支援と協力をいただきたい。

この会議には事務局側も含めて10年間携わっている。その間、こども施策については大きく変わってきた。まず10年前には子ども・子育て支援法が制定され、その後保育の無償化が始まり、直近ではこども家庭庁が創設され、国の施策もどんどん変わってきている状況であり、市としても対応していかなければならない。そのためには、皆様の協力が不可欠である。今後ともよろしくお願いしたい。

金川会長 各方面からの実感に迫った意見を聞かせてもらった。

子育て支援というのは急に進展するものではなくて、受け継いでいくものだと思う。さきほど話にあったように、地域で見守りパトロールしてもらった経験から、今は時間がないけど自分も将来役に立ちたいと。つないでいくもの、少しずつ良くしていくものだと思う。

地域の皆さんの力も重要だが、先立つものがないとできない。ビジョンがないとできない。紀の川市の取組を見ていると、総合力は十分にある。予算は財政部局に働きかけてもらって、ビジョンをたくさんもって

いると思うので、子ども・子育て会議委員はそれを後押ししたい。会議で意見が出たから予算が必要である、等々、この会議を交渉にうまく使ってほしい。よろしくお願いしたい。

議題は以上である。事務局から報告事項がある。

4. その他（事務局からの報告事項）

- 公立保育所第2次再編計画について
令和2年3月に現行の計画が策定され、今年度が最終年度となっているが、用地の関係等でほとんど進んでいないため、数値等を最新のものに反映させたい。内容をそのまま踏襲して計画期間を更新する。
⇒ 委員からは質問や意見なし。
- 子育てガイドブックについて
紀の川市子育てガイドブック2025年版を発行した。2月以降、妊娠届出時等に窓口で配布するとともに、子育て関連施設等に設置している。電子版も公開している。今後毎年更新予定である。
- 委員報酬や委員改選について
会議出席にかかる委員報酬、来年度の委員改選等について説明する。

5. 閉会